練馬区立光が丘四季の香小学校

学校だより

教育目標：自ら考える子・思いやりのある子・たくましい子

HP　http://www.shikinokaori-e.nerima-tky.ed.jp/

＜ １１月号 ＞

令和元年１１月５日

TEL　03-3977-2711

校　長 高 野 博 文

第１０５号

保護と教育について考える

校　長　　高　野　博　文

早いもので、１年間の折り返しが過ぎ、２学期もあっという間に半ばを過ぎました。冬の到来、今年は１１月８日が立冬です。

さて、先月実施しました音楽会には、多数参観いただきありがとうございました。このような大きな行事の後にいつも感じることは、子供たちの著しい成長です。各学年の発表はそれぞれの発達段階を超えた合唱・合奏だったと感じ、胸が熱くなりました。

子供たちからは「緊張したけど楽しかった。」「（自分たちの歌と合奏が）どんどんうまくなっていった。」という声が聞こえてきました。来賓の方々はみなさん感動されていました。保護者の皆様はどのように感じられましたでしょうか？

実は次の週には光が丘第一中学校の文化発表会（合唱コンクール）がありました。私が本校に来てから送り出した卒業生が、１年生から３年生までになりましたので、すべての学年のクラス合唱を聞いてきました。立派であったことは言うまでもないのですが、小学校と中学校の教育は音楽でもしっかりつながっていることを改めて強く感じました。これからも、「行事」を大切にしながら日々の教育活動を進めていきます。

さてさて、今回は「保護と教育」について考えてみます。私が最近感じることは、これから「生きる力」を身につけていく子供たちがあまりにも保護されすぎているのではないかということです。

少し有名なお話です。頼る大人のいない子供がひもじさから、釣りをしている大人から釣った魚を求めます。大人は魚をあげません。その代わり魚の釣り方を教えるという内容です。この大人の考え方はその場の飢えをしのがせるのではなく、自分で長く飢えをしのぐことを学ばせることが大切ということなのでしょう。私ははじめ、お魚をあげてから（保護）釣りの方法を教えてあげてもいいのではないかと考えました。しかし、よく考えてみると、子供は簡単に手に入れた方法を繰り返すかもしれません。そのうちせっかく教わった釣りの仕方も忘れ、ひたすら魚をもらい続けるかもしれません。子供は学ぶ機会と技術を習得する機会を逸します。貴重な時間も浪費することになります。

もちろん、子供のピンチを救ったり、危険から遠ざけたりすることは大人の務めではあります。さらには、子供たちが自ら困難を切り開いていく力を身につけさせることも大人の務めです。「保護と教育」この二つのバランスとタイミングが重要な気がします。

子供の頃よく耳にした、「かわいい子には旅をさせろ」「苦労は買ってでもしろ」等の言葉が死語にならないといいなと思います。